

地域交通とモビリティプロジェクト



プロジェクト概要

このプロジェクトは、高齢化社会やクルマ社会に伴う移動手段の課題を明確化し、特に地方部では生活の足となっている自家用車の過剰な依存を見直し、地域全体で持続可能な交通のあり方について考えることを目的に、京都府京丹後市や兵庫県丹波篠山市などにおいてフィールドワークを実施しています。地域交通や買い物アクセスをテーマに地域での生活課題を発見し、解決に取り組む実践から学び、現場に提案・提言していくことを目指すプロジェクトです。

地域が抱える課題への実践活動としてメディアに取り上げられたり、活動成果が各種大会で受賞するなど学びと地域活動が連動しています。

なぜ地域交通をテーマとするのか？



プロジェクトの特徴

- 課題の発見：問いの設定、課題を知る、現地調査**
自らの「問い」を設定し、実際に地域を訪ねて聞き取り調査等を行い、課題は発見に努めます。地域で生活している住民の方々にはどのような悩みがあるのか、継続的な訪問を通じ把握します
- 実践から学ぶ：先進事例の調査、実践プロセスの解明**
先進的な取り組みを行う実践者（NPOなど）を対象に、現地の視察や聞き取りを行います。どのようなプロセスを経て新たな取り組みが生まれてきたのか、現場との対話を通じて考えていきます
- 現場への提言：学んだことをふまえて、地域への成果の還元**
課題の発見や実践からの学びをふまえて、現場への提言や成果の還元を目指します。単なる調査報告ではなく、課題の緩和・改善・解決に向けた具体的な方策を導き出します

活動背景

慢性的な運転手不足によるバス路線の縮小廃止や交通事業者の経営環境の悪化など全国的に公共交通の維持が難しくなっています。活動先のひとつである京丹後市では、市内運賃が誰でも乗車1回あたり上限200円で利用できる「上限200円バス」事業のほか、エリア内で定額乗り放題の交通サービス「mobi」や、自家用有償旅客運送「ささえ合い交通」（公共ライドシェア）など交通ニーズを合わせ多様な公共交通が導入されています。一方で、市内在住者の通勤・通学の主な交通手段は依然として「自動車」が77%を占め、バスや鉄道を利用している人は全体のわずか6%に過ぎません。生活者に寄りそった持続可能な地域公共交通のあり方について考えます。

地域交通・モビリティプロジェクトチームごとの活動概要

①交通政策	②共助交通	③新モビリティ	④買い物アクセス	⑤モビリティマネジメント
京丹後市全域	京丹後市(丹波)	京丹後市(峰山・大宮)	京丹後市全域	丹波篠山市
交通つごろうの実践を通じた市民の公共交通利用文化の醸成	乗車体験会の実施を通じた市民の公共交通利用文化の醸成	デジタルマップアプリの活用によるシームレスな移動環境の構築	京丹後市内の買い物アクセス拡充の把握と、課題解決の方策の提言	新たな交通の導入に伴う利用体験会の実施を通じた市民の提言

京丹後市の先進的な公共交通施策



活動内容

主に京丹後市や丹波篠山市において活動しています。学生は買い物や通院など日常生活の移動に困っているの方々、政策や実践に関わる人々など実際に現場で話を聞き、課題を探っています。課題解決に向けた糸口となるよう政策提言だけでなく、住民との交流を通じて自分事として課題に向き合っています。（活動写真をクリックするとそれぞれの説明ページにとびます）



学生考案「京丹後市版 交通つごろう」

モビリティを効果的に使う方法を考える「交通つごろう」を開発。従来の地域公共交通に加え、自家用車も含めた全ての移動手段を組み合わせてゴールを目指し、「モビリティミックス」の重要性を楽しみながら学ぶことができます。

モビリティロゲイング@京丹後

ナビゲーションスポーツ「ロゲイング」をアレンジした地域公共交通に親しむイベントを実施。本プロジェクト独自の企画です。路線バスやライドシェアを使ってチェックポイントを目指します。



高大連携企画「若者よ、mobiを使おう！」

京都府立丹後緑風高校の探究学習コミュニティゼミとの連携企画。地元の高校生と一緒に「mobi」利便性を体験し、公共交通を考えるワークショップを開催。丹後万博での啓発活動も実施。

産学連携デジタルイラストマップ「ambula map」

デジタルイラストマップアプリ「ambula map（アンブラマップ）」を運営する株式会社コゴト（京都市）と協力しデジタルイラストマップを作成。モビリティロゲイングなどに活用しています。



産官学連携「乗車体験会 in丹波篠山」

丹波篠山市にて、AIオンデマンドバス「のる〜と丹波篠山」の2024年11月の運行開始に先立ち、公共交通の利用促進に向けた住民向け乗車体験会を実施。免許返納後の交通アクセスなどに困らないよう産官学そして地域と連携して実施しています。

政策研究交流大会への参加

公益財団法人 大学コンソーシアム京都が主催する「京都から発信する政策研究交流大会」に出場しています。2024年度は5チームが本選となる分科会発表を行い、そのうち1チームが優秀賞を受賞しました。現場で学んだことを政策提言につなげています。

実績

メディア掲載など

- ・KBS京都「きらりん！」 2024年11月1日放送
学生がスタジオ生出演「モビリティロゲイング」の活動成果を紹介
- ・NHK京都放送局「京いちにち」 2024年11月13日放送
本学学生と京丹後市民が参加の公共交通乗継イベント「モビリティロゲイング」を特集
- ・『サンデー毎日』 2024年12月08日号「大学プレスセンターニュースダイジェスト Vol.199」
大学プレスセンターニュースアクセスランキング第18位（調査期間：9月21日-10月20日）

補助金採択など

- ・京丹後市「夢まちづくり大学」採択事業（2022年～継続）
- ・兵庫県「学生等による地域貢献活動推進事業（丹波地域）」（2024年）
- ・京都府「大学・学生とともにのぼす京都プロジェクト共同事業費補助金」（2023年、2024年）

関連記事

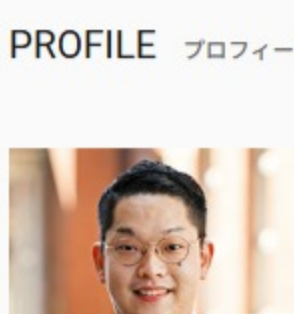
- > 2025.04 公益財団法人関西交通経済研究センター「第17回（2024年度）懸賞論文」優秀賞と奨励賞のダブル受賞【プレスリリース】
- > 2025.02 丹波篠山研究発表会にて、社会学部の学生が「市長賞」を受賞
- > 2024.12 「第20回 京都から発信する政策研究交流大会」分科会優秀賞を受賞
- > 2024.10 学生考案「モビリティロゲイング@京丹後」を開催【プレスリリース】
- > 2024.10 デマンド交通「のる〜と」乗車体験会を丹波篠山市にて開催—地域公共交通計画政策推進の一環に学生が全面協力—【大学プレスセンター】
- > 2024.8 「京丹後青年会議所イベント」に本学学生が企画参加
- > 2024.8 社会学部の学生考案「交通つごろう」ワークショップを開催【プレスリリース】
- > 2024.5 イラストマップアプリ「ambula map」を活用した産学連携フィールドワークを実施
- > 2024.3 公益財団法人関西交通経済研究センター「第16回（2023年度）懸賞論文」で優秀賞を受賞
- > 2023.12 大学コンソーシアム京都「第19回京都から発信する政策研究交流大会」にて研究成果を発表



> 府立高校と連携した新モビリティ利用促進活動

> 丹波篠山市での乗車体験会（モビリティマネジメント）

PROFILE プロフィール



野村 実
社会学部コミュニティデザイン学科
関連リンク
> 教員紹介 / 野村 実
> コミュニティデザイン学科